



発行所
公益社団法人 全国珠算教育連盟
青森県支部
所在地 三沢市中央町4丁目4-6
☎0176 (53) 3662
支部長 斎藤 隆
責任者 福士隆行

第6回人材育成講習会に参加して 十和田地区：関向知寿

1月23日から25日まで行われた今回の人材育成講習会。前日からの吹雪。参加できない先生もいるほどの状況の中、京都のメルパルク京都で今回の人材育成講習会が開催され、参加させていただきました。講義は、珠算史や算法、心の教育まで多岐にわたり、全8講座プラス各先生方の自己紹介や、取り組んでいることの発表等、非常に充実した3日間を過ごすことが出来ました。



『そろばんって今時、いいんですか?』 クリスマスイブ（講習2日目24日）のお昼前。京都駅を出てすぐ右手のホテル、昨日と同じ部屋。第5講座岡久先生の講座の冒頭突然投げかけられたこの質問。講師の先生がランダムに我々受講者に意見を求めていく中、次々と答える受講者の先生方を見ながら、自分とは言う、受講者の先生方の意見に「すごいな〜…」と感心しきりでしたし、「頼む！当たらないでくれ！」と、願いうつむくばかりでした。もし当たったら何を言おうか。計算力？数的感覚？忍耐力？集中力？と頭の中はそろばんのカレンダーの最後のページの6つの効能がぐるぐるしていますが、それはその場を取り繕う答えを一生懸命探しているだけで、本当は自分が、今まさに直面している問題でしたし、欲しい答えでした。

『自分はどういう気持ちで生徒と、親とこれから向きあうのか?』 突然この講習会でのテーマが与えられた気がしました。私の教室にもそろばんが苦手だったり算数が苦手だったりする子がいる。そして理解するのに時間がかかる子や算数が苦手な子ほど私の教室では早めに辞めていく傾向が強い。そろばんは難しいと考えているのか、嫌なのか、他に興味がわいたのか、もしくは無駄だと考えているのか、私とあわないのか。自分としては算数苦手そんな子供たちの役に立つ。そのために何かをしたいと思いつつも、試験練習や、大会練習のための問題作りに精を出し、エクセルの関数をいじくりまわしてはほくそ笑む。そろばんは何なのか？という事をあまり考えずに、またそろばんという道具があるのが自然すぎて、そろばんと全く向き合っていなかったのかもしれない。そんな中、今回の講習会で見せていただいた学校の算数で使うアレイ図やかぞえ棒がまさにそろばんそのものであり、さくらば計算はそろばんと共通する考え方も多分にふくまれているのではないかと。そう思うようになり、本来視覚的に数をとらえることが得意なはずのそろばんの利点に気づき、やっと自分なりの答えが出せそうな気がする。

『そろばんって今時、いいんですか?』 実は、今も昔も小さい子供が数を学ぶという事を考えた時、最適な道具である。これが現時点で導き出した私なりの意見。そう時間が戻るならクリスマスイブのあの部屋で、自分に意見を言わせてくれと言わんばかりのそんな姿勢で座っていただろう。目で見て数が分かりやすい。自分の指で直接動かせるそろばんこそ、小さい子供が最初の10進数での数を覚えたり、足し算や引き算を覚える道具として、実は最適だったのではないかと。昔の計算機としてのそろばんの位置づけではなく、動かせるアレイ図、かぞえ棒として。もしかしたら小学校1年生にこそ、必要だったのではないかと思う。

最後に、懇親会について報告したいと思います。2日目の夜、懇親会は結婚式等も行われる素敵な会場においておいしい食事とお酒が用意されており、各県で様々な活躍をされている先生方と交流を楽しむことが出来ました。授業形態であったり、タブレット活用であったり、ホームページ作成についてであったり、京都観光についてであったりと、すばらしい情報交換が出来たのではないかと感じております。そして懇親会の最後に参加者全員で手をつなぎ『全珠連歌』の大合唱で無事終了となりました。そこから同じ班の先生方プラス数名で京都駅前の居酒屋で更に交流を深めてまいりました。たくさんの先生と交流し刺激を受けた事により一回りも二回りも成長出来たのではないかと思います。

合格 検定試験 **十段合格者**
377回検定試験 (平成29年1月29日施行)
珠算 江川 豪生 (三沢地区)
378回検定試験 (平成29年3月19日施行)
暗算 下田 真旺 (三沢地区)

第63回全国珠算研究集会、広島市で開催！

- パネルディスカッション「新応用計算を考える」-
- 講演「自ら考え行動する力を育むボトムアップ理論」-
- 実践発表「保育園におけるそろばん指導」-



3月26日、広島県立文化芸術ホール(上野学園ホール)に於いて第63回全国珠算研究集会が開催されました。全国から700名以上、青森県支部からは5名の先生が参加、会場は原爆ドームのある平和記念公園の近くにあり、ここは桜の名所でもあります。例年ならちょうど見頃とのことですが今年はまだ蕾で残念、公園を散策しながら会場へ向かった方もおられたようです。

午前10時開会。梶川眞秀理事長は「広島は三本の矢で有名な毛利元就の子、輝元がデルタの地に居城を構え、現在では中国地方の中心地で人口120万を超える都市に成長しました。また広島県は全珠連の生みの親である荒木勲先生の出身地でもあります。今日は色々な分野の貴重な講演や発表をご聴講いただき今後に生かしていただければ幸いです」と挨拶しました。

◆ **パネルディスカッション『新応用計算を考える』** 将来への展望と題し、標記をテーマに4名のパネラーが意見を述べました。まず現行の応用計算の評価点と問題点を検証、今後取り入れなければならない問題、今の子供たちに適した内容とはどのようなものなのか4名それぞれ例題をつくり新問題を提案しました。

◆ **講演『自ら考え行動する力を育むボトムアップ理論』** 昼食休憩後、ボトムアップパーソンズ協会代表理事で、広島県立安芸南高校サッカー部監督の畑喜美夫氏が講演しました。畑氏は広島観音高校に赴任、サッカー部監督として選手主体のボトムアップ理論を用い、2006年のインターハイ初出場初優勝の全国制覇という快挙を成し遂げました。

《要旨》ボトムアップ理論とは、トップダウン(管理方式・上から下へ)ではなくボトム(下部)から意見を吸い上げていく考え方のこと。つまり監督が指示を出して選手を動かすのではなく、選手主導(自主性、主体性)でみんな考えながら下から上へ意見を述べる。問題点は選手同士で話し合わせる、監督は我慢し自発性を促していくことが大事である。子供たちから学ぶという姿勢、一緒になって育っていくという気持ちも忘れてはいけない。常に主役は生徒たち、自分たちで苦難に立ち向かい切り開く能力を持っている。決して生徒たちの創造、判断、実行の自由を奪ってはいけない。勇気をもって挑戦しての失敗にこそ成功のチャンスがある…失敗とは挑戦しないことである。選手育成の3本柱は凡事徹底(良い習慣は才能を超える)…挨拶、返事、3S活動(整理・整頓・掃除)であり、組織構築の3本柱は量より質、信頼と絆、自主自立の精神である。安芸南高校サッカー部の練習日は週2日、練習日以外を自主トレで過ごすのもサッカー以外のことをして過ごすのも自由、本人の判断だ。自分で自分の時間をコーディネートする力を身につけることもボトムアップでは重要なトレーニングになる。部員全員とノート交換をおこなっているが、不安や心配事、悩みなどいろいろな事が書かれてくる。それらを受け止めてアドバイスすることで信頼と絆はより強いものになっていく。どれほどサッカーのテクニックが優れていても挨拶と返事と整理整頓ができない選手がスタメンに選ばれることはない。自主性を持ち自分たちで物事を決めるからこそ自律の精神も育っていく。生徒は必ず光ものを持っている、ミスを叱るのではなく隠れた良いところを見つけ出していく努力をこれからもしていきたい。サッカー指導を珠算指導にリンクして見てほしい。ボトムアップ的に自ら考えて行動する人間の育成をめざして。

◆ **実践発表『保育園におけるそろばん指導』** 続いて、福岡県支部の真栄喜貴弘先生が実践発表を行いました。年長児クラス26名2クラスを担当、月2回、40分の集団授業、他に希望者を対象に課外授業を週1回実施、課題として①数の概念が身につけていない、②理解力、記憶力が低い、③集中力やモチベーションの維持が困難』であることをあげました。その対策としての学習効果を高める方法を考え実施したのはスモールステップ(カリキュラムや教材の内容を細分化しクリアしやすいものにする)オーダーメイド(個々のスキルや進度が違うためオリジナル教材が必要)口唱授業(運指を声を出して読ませる)などです。園児たちがワクワク感がもてるように工夫しながら授業している様子をビデオで紹介しながら説明されました。そろばんを習う子の低年齢化が進んできており、大変参考になった実践発表でした。

次回の研究集会は平成30年3月25日に東京都で開催される予定です。



**フラッシュ暗算検定ソフトの
締め切り、迫る！**

フラッシュ暗算検定ソフトの販売が、6月末で終了します。

**支部で、の取りまとめの締め切りは、
6月12日(月)までと、させていただきます**
すので、ご注意ください。
購入希望の方や、このソフトに関してのお問い合わせは、支部へお気軽にご連絡下さい。
よろしくお祈りします。

